（様式１）

自　己　評　価　表

愛媛県立宇和島東高等学校（全日制）

学校番号（４０）

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	新しい時代を切り拓く人間力の育成

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現	わかる授業の実践	主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善に努める。また、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実を図り、授業アンケートにおいて生徒の授業満足度※90%以上を目指す。さらに、授業でのＩＣＴの活用を推進し、新たな学びの研究を進める。 Ａ：100～85%　Ｂ：84～70% Ｃ： 69～50%　Ｄ：49～40% Ｅ： 40%未満 ※授業満足度は以下の方法で算出する。 （授業アンケート全体の平均点÷満点4点）×100 ＝満足度%	A	１学期末に実施した授業アンケートの結果は、昨年同時期と比べると0.57ポイント上昇しいる。授業満足度は86%であり、概ね高評価となっている。とりわけ教科担任による授業の工夫、熱意、評価の在り方については平均値が、４段階中 3.5を超えており、高い評価となっている。一方、生徒自身の取組に対する自己評価も高い数値が出ているが、教科担任への評価と比べるとやや低い。課題に対する取組には3.5という自己評価をしているが、予習やさらに発展的な内容を学習したり、分かるまで粘り強く取り組もうとする姿勢は、前者よりやや低い。今後もＩＣＴをより効果的に活用して、生徒が自律的に学習する支援を研究していきたい。	12月に実施した授業アンケートでは、授業満足度が87%と、１学期から継続して高い評価が得らている。さらに２学期も教科担任の熱意、授業及び評価の工夫により高評価が得られた。教科横断型授業等を積極的に導入するなど、新学習指導要領の示す新時代の教育が活発に実践されている。一方、生徒自身の学習に対する自己評価に関しても86%と高く、１学期よりもやや上昇はしているが、課題の提出等の勤勉性と比較すると、主体性や粘り強く取り組む姿勢、興味・関心が前者よりやや低い。ＩＣＴ機器の効果的な活用法について更に研鑽を深めるとともに生徒一人一人の最適な学びを支援できるよう、学校全体で研究し、取り組んでいきたい。
		校内外の研修・研究授業に年間５回以上参加し、自己研鑽に励む。授業の相互観察等を行い、教科横断的な授業の実践に努める。また、校内研究授業や授業研究会の計画及び実施を通して、授業力の向上を図る。 Ａ：５回以上　Ｂ：４回 Ｃ：３回　Ｄ：２回 Ｅ：１回以下	A	初任者の研究授業を４回、県立学校基礎研修対象者の研究授業を３回、各教科の研究授業を７回実施した。また、ＩＣＴ活用授業改善推進事業研究授業や教科横断型授業を実施したり、他校の公開授業に積極的に参加したりして、多くの教員が意欲的に研修に取り組んでいた。研修や研究授業への参加回数は、年間平均５回以上であった。	来年度も引き続いて校内研究授業や研修を計画・実施していきたい。コロナ禍のため、校外の研修や公開授業がオンラインになることも多かった。しかし、それがかえって参加のしやすさにつながっている。遠方の学校であってもオンラインでなら参加が可能である。今後も ZoomやTeamsでの研修参加を積極的に進めていきたい。
	学習習慣の確立	ＩＣＴ機器を有効に活用して適切な量の課題に取り組ませ、１日３時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。自己の学校生活に対する振り返りや担任による個別面談の充実により、進路意識を醸成し、学習時間の増加につなげる。 Ａ：3.0時間以上　Ｂ：2.9～2.5時間 Ｃ：2.5～2.0時間　Ｄ：1.5～1.0時間 Ｅ：1.0時間未満	B	生徒の個人端末を活用して、Teams による課題配信やオンライン授業を進めることで学習環境の効率化、改善を進めてきた。観点別評価の導入もあり、授業改善が一層進みつつある。 １学期の家庭学習時間調査では、理数科・普通科の家庭学習時間の総平均は174分、商業科は 85分であり、昨年度と比較して１０分程度減少している。	１年生においては、観点別評価が実施されたが、より良い評価につながるよう今後とも工夫、改善が必要である。２学期の学習時間調査（９月実施）では理数科・普通科の家庭学習時間の総平均は 176分、商業科は94分であった。昨年度と比較すると、どちらも減少している。特に１年商業科の減少が顕著であり、検定等取得など目標を立てて家庭学習に取り組ませたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現	理数教育の充実	科学的探究能力の育成を図るとともに、科学系コンテスト等において課題研究の受賞数20件以上、また、地域貢献の意識高揚を図るために、地域サイエンス事業のイベント等への参加数 500名以上を目指す。地域サイエンス事業の充実のためにオンラインの活用を進めるとともに、継続的な国際性育成、ＲＲ(リージョナル・リサーチ)先進校として、他校との連携等を深める。それらの評価のため、ルーブリックの質向上やアンケートの充実を図る。 (科学系コンテスト) Ａ：20件以上　Ｂ：16～19件 Ｃ：12～15件　Ｄ： 8～11件　Ｅ： 7件以下 (地域イベント等への参加) Ａ：500名以上　Ｂ：400～499名 Ｃ：300～399名 Ｄ：200～299名　Ｅ：199名以下	A A	科学系コンテスト等への出品等 133件のうち、受賞作品数は29件であり、目標を達成することができた。今後も出品予定あるいは出品済みのコンテストが多数あるので、更に成果が期待できる。コロナ禍の影響はまだまだ続いており、小学校への出前授業がいくつか中止になり、やや伸び悩んでいるため、地域サイエンス事業等へののべ参加人数は50名程度と多くない。しかし、コンテストやオンラインイベントも含めると、のべ参加数は650名を越えており、学校全体のイベント等に対する活動自体は大変活発である。このほかにも愛媛大学ＧＳＣへの参加やハワイ大学との交流なども実施しており、今後も活動の充実と参加人数の増加や質の向上にもこだわって取り組んでいきたい。	来年度、科学系コンテスト等への出品数は 150、受賞作品は40とし、数ではなく質にこだわっていきたい。今年度多くの出品数を数える中で、コンテストでの上位入賞が少なく、課題研究に対する深まりが不足している点が明確になった。研究計画に始まり、データの蓄積や整理方法等、再度基本に立ち返る必要がある。また、地域サイエンス事業に関して宇和島自然科学教室との連携では一定の成果をあげているが、中学校との連携が薄いためそこを強化したい。また、愛媛大学ＧＳＣへの参加人数を増やすことや企業との連携強化にも取り組みたい。マレーシアのインダプラ校、ハワイ大学、ワイパフ高校(ハワイ)等海外の学校と年間を通して継続的に連携し、本校生徒の国際性育成にも努めたい。
	産業教育の充実	キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、ビジネスに必要な豊かな人間性と資質を育成する。資格取得を奨励して全商検定１級３種目以上合格者70%以上を目指す。 Ａ：70%以上　Ｂ：69～60% Ｃ：59～50%　Ｄ：49～40% Ｅ：40%未満	C	今年度の３年生の３種目以上１級合格者数は、前年度より増加し、67名(57.8%)であった。特に商業科Ⅱ型では、クラス39名中33名が３種目以上１級に合格するなど成果を上げた。さらに国公立大学への進学実績もここ数年では最多となるなど、資格取得を進路実績にもつなげることができた。商業科Ⅰ型においても、合格者が増加した検定種目もみられた。１年生で実施していたインターンシップはコロナ禍の影響で中止したが、代替として外部講師をによる講演会を実施してキャリア教育の充実に役立てた。	今後もコロナ禍による影響は予想されるが、貸与されている一人１台端末を活用して、効果的な学習指導に役立てたい。また、端末と併用して学習に対する理解が深められる補助教材等の研究と実践を進めていきたい。資格取得を通じて得られた達成感や満足感は、学習意欲の向上や進路意識の醸成、キャリア教育の充実にも役立てたいと考えており、今後も全商検定の各種目で上位級に合格できるようホームルーム担任や教科担任との連携を密にして、個に応じた指導に努めたい。
	希望進路実現	望ましい職業観や勤労観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を把握した就職指導を実践する。企業情報の提供を充実させるとともに、職場見学を推奨し、早期に採用内定率100%を達成する。 Ａ：90%以上　Ｂ：89～80% Ｃ：79～70%　Ｄ：69～60% Ｅ：60%未満	A	夏季休業中に外部講師による就職ガイダンスを実施した。就職希望者に対しては、応募書類作成や面接の指導、ホームページの閲覧を含めた企業情報の提供を行った。また、積極的に職場見学をさせたことで事業所への理解が深まった。学校斡旋による就職は、10月末までに就職率 100%を達成することができた。また、公務員希望者においても７名が合格することができた。	コロナ禍のため、「職場及び学校見学会」や「インターンシップ」が３年間実施できていないので、来年度は実施する方向で進めたい。これらの活動により、早期から進路目標を持たせ、就職に対する意識の向上を図りたい。また、担任や教科担当者と連携した進路指導を行うとともに迅速かつ適切な進路情報の提供に努めたい。
		「思考力・判断力・表現力」を問う入試問題の研究に努めるとともに、総合型選抜・学校推薦型選抜に向けての密な情報交換を行うことで、教員の進路指導力を向上させ、国公立大学100名以上を達成する。 Ａ：100名以上　Ｂ：90～99名 Ｃ：80～89名　Ｄ：70～79名 Ｅ：69名以下	A	進学指導員会を通して、過年度の進学データや今年度の進路希望の動向を確認した。また、学校型推薦や総合型選抜の出願については、検討会や進学指導委員会だけでなく、普段より共通のデータを活用することで、担任相互や学年団と進学課の連携を図ることができている。今年度は、土曜補習を減らしたことに加えて、インターハイの影響で夏季休業中の補習時間も激減した。これに関する影響をきちんと分析しておきたい。	多くの教職員の方々の援助を得て、２次対策補習や個別指導を徹底的に行い、3月10日時点(前期試験合格発表時点)で、国公立大学は １０９名が合格している。これは、理普科が１学年４クラスになってから最多数であり、前期試験の合格率が約６０%、難関１０大学合格者９名、医学科合格者３名、商業科の合格者数２４名など、ここ１０年では最もすばらしい結果を残してくれた。昨年度の課題であった、推薦入試での合格者数も大幅に増加することができた。今年度の取組やデータを来年度にもしっかりと引き継いでいきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的生活習慣の定着	引き続き、新型コロナウィルス感染拡大防止に注意を払いながら、気持ちの良い挨拶や清潔感のある身だしなみを意識した生活をさせる。また、校内での自転車押し歩きなど交通マナーやルールを遵守する生徒を育成し、交通事故０を達成する。 Ａ：100～90%　Ｂ：89～75% Ｃ： 74～60%　Ｄ：59～50% Ｅ： 50%未満	B	気持ちの良い挨拶ができている、ほぼできているという生徒が 70.2%と昨年より少し減少している。コロナ禍でのマスク生活が影響しているのではないかと感じる。端正な身だしなみについては 83.2%の生徒ができている、ほぼできていると答えており、身だしなみ指導の合格率とほぼ同等の数値になっている。交通事故については３件（自転車で自動車と接触など）と昨年より減少した。	今年度は、女子の制服にスラックスの着用が選択できるようにした。校則の見直しについては、年度当初から時間をかけて取り組んでおり、生徒会で取りまとめた生徒の意見も反映させることができた。今後も校則が、生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していく上で適切なものとなるよう検討を進めていきたい。また、交通安全意識の高揚については、交通安全委員会を中心に、自転車マナー向上の呼びかけや登下校時の街頭指導を継続していきたい。
		生徒の健康と安全に留意し、学校全体で長期欠席や不登校生徒への早期対応を図るとともに、新型コロナ感染予防に取り組み、一か年の皆勤率60%以上を達成する。毎月清掃場所の点検を実施し、教育環境を整える。防災教育を通して、防災意識の高揚を図る。 Ａ：60%以上　Ｂ：59～50% Ｃ：49%～40%　Ｄ：39%～30% Ｅ：30%未満	B	毎時間終了後の放送での呼びかけ効果もあり授業後の換気がほぼできており、清掃時の消毒の徹底が定着している。保健室利用者は昨年より減ったもののコロナ不安や発熱・体調不良で利用する生徒が多かった。皆勤については60%を下回った。防災についての意識は高くなってきている。清掃点検や職員の管理場所点検により、速やかに施設の破損個所の修理ができている。	来年度も引き続いて毎時間授業終了後の校内放送を行い換気に努め感染予防を図りたい。また、引き続き清掃時や部活動時にも消毒の徹底をおこなっていきたい。６校合同の避難訓練も定着してきた。事前協議など防災委員に積極的に参加させ全校生徒に発信していきたい。
	人権意識の高揚	差別を無くす行動力を育てる学習内容をさらに充実させ、保護者・地域との連携を強化する。 人権・同和教育研修会を充実させ、全教職員が共通の意識をもって取り組む。また、校内・校外の人権委員会活動の活性化を図るとともに、人権委員以外の参加者を増やす。人権侵害をなくす取組を10回以上実践する。 Ａ：10回以上　Ｂ：9～8回 Ｃ：7～6回　Ｄ：5～4回 Ｅ：3回以下	B	全教職員を対象に人権・同和教育研修会２回を実施し、差別の解消に向けた個々の実践力を高めた。また、地域の研修会にも積極的に参加し、学びを他の教職員と共有した。 人権の日における全校放送、「Hidamari」の発行や「宇東差別解消宣言」の実践、人権集会での啓発活動、人権委員学習会を４回実施し、生徒の人権意識の高揚を目指した。人権委員学習会の内容をホームルーム活動と連動させることで人権委員以外の参加者を増やすことができている。	人権集会の実施や校内で毎月設定している「人権の日」に人権だより「Hidamari」を発行し、全校放送やさくら連絡網を活用して啓発活動を実施したことにより、生徒や保護者の感想・行動からも人権意識が高まりが感じられた。今年度は人権委員会学習会において校外との交流活動が実施でき、深い学びができた。校内での様々な人権・同和教育研修会を実施することで、教職員の人権意識や同和問題に取り組む姿勢にも変化が表れてきたように思われる。次年度もこの取組を継続し、生徒にとって居心地の良い学校の雰囲気作りに努めたい。
	読書の勧め	学年団の協力のもと、「朝の読書」やクラス単位での読書会を実施することで、読書指導の充実を図る。「宇中文庫Day」を設け、宇中文庫による集団読書を各クラス年間２回以上実施する。教科学習やホームルーム活動における図書館の利用を促し、読書冊数一人10冊以上を達成する。 Ａ：10冊以上　Ｂ：9.9～8.0冊 Ｃ：7.9～6.0冊　Ｄ：5.9～3.0冊 Ｅ：2.9冊以下	C	「宇中文庫」の貸出を年２回実施し、朝の読書の時間を使った読書指導(宇中文庫 Day)や夏休みの全校一斉貸出を行った。読書会は年２回実施した。２学期の読書会ではショートショート作家の田丸雅智さんに協力していただき、生徒がショートショート執筆を行った。「図書に関するアンケート」によると、朝の読書は充実していると回答した生徒は全体の92%であったが、読書冊数(12／12現在)の全校平均は6.8冊(昨年度は7.2冊)であり、昨年度よりやや減少した。朝の読書の時間やホームルーム活動等を有効に活用し、読書の意欲向上に努めたい。	昨年度に比べて読書冊数が減少している。１年生の理普科は 9.4冊で最も高いが、学年が上がるにつれて読書量が減る傾向にある。授業やホームルームでの図書館利用を促したり、昼休みや放課後の利用を増やしたいと考える。生徒の学校評価アンケートを見ると「図書館に読みたい本がない」と回答している生徒が目立った。新刊は随時入れているのだが生徒のニーズに合っていないのかもしれない。リクエストカードの利用を促したり、図書委員の生徒の意見を聞いたりして改善に努めたい。
	ボランティア活動や地域イベントへの参加	コロナ禍のなか開催されるボランティア活動（四国インター高校生活動など）や地域イベント（南予きずな博など）に関心を持ち、可能な範囲での参加を通じて、広く社会に貢献し、地域を愛する人材を育成する。	B	四国インターハイでの高校生活動や補助員のボランティア活動など多くの生徒が携わってくれた。まだまだコロナ禍のため地域イベントへの関わりは少ない。	今後、感染症対策を取りつつ様々な行事の実施が再開されてくると思われる。ボランティア活動など校外での主体的取組は、キャリア教育の観点からも重要であると考えており、今後もボランティア活動の参加に関する情報を発信し、生徒が積極的かつ主体的に選択して参加できるよう支援していきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	生徒の主体性を軸に、学校行事における協働的な取組を通してコミュニケーション力を高め、地域や学校を愛する豊かな心を育成するとともに生徒の学校行事満足度100%を目指す。 Ａ：100～95%　Ｂ：94～90% Ｃ：89～80%　Ｄ：79～60%　Ｅ：60%未満	B	校内ボートレース大会や体育祭においては、生徒会執行部を中心に協働的な取組が行われ、この２つの行事に対する生徒の満足度は95%を超えている。今後、実施予定の文化祭、クラスマッチにおいても生徒主体の有意義な行事になるよう計画していきたい。	２学期に開催した文化祭においても感染症対策を取りつつ、縮小開催ではあったが、盛会となった。特に文化部の生徒などの取組は、有意義なものが多かった。また、クラスマッチにおいては様々な問題に直面したにもかかわらず、生徒会がしっかり対応してくれたおかげで、クラスの団結、愛校心を高めることができたと思う。来年度も生徒ファーストの学校行事にしていきたい。
	部活動の活性化	「質の高い文武両道」を目指すなかで、生徒、教職員、保護者をはじめ、地域との連携も深め、より良い部活動運営を行い、心・技・体の調和が取れた生徒を育成する。 津島分校とのより良い部活動の連携を実現する。 四国大会に15部以上、全国大会には10部以上の出場を目指す。 （四国大会）　Ａ：15部以上　Ｂ：14～11部 Ｃ：10～5部　Ｄ：4～1部 Ｅ：出場なし （全国大会）　Ａ：10部以上　Ｂ：9～7部 Ｃ：6～4部　Ｄ：3～1部 Ｅ：出場なし	B	津島分校との連携は円滑に進められている。県総体の結果、四国大会には９部が出場し、インターハイには６部が出場した。更にインターハイでは、柔道女子個人３位、ボート女子個人２位、相撲５位と素晴らしい結果をあげている。また、２学期以降の１・２年生主体の新チームによる成果も上がっており、野球部、卓球部、テニス部、剣道部、陸上競技部が四国大会に出場し、少林寺拳法部、ボート部、体操部、相撲部、柔道部は３月の全国大会に出場する。また、文化部においては、生物部が次年度の全国高文祭に参加する。	部活動における津島分校との連携について関係者と協議を行った。活動時間や移動方法など問題点もあり、来年度に向けてしっかり改善していきたい。部活動の活動状況は、運動部において例年以上に１年生の加入率が高く、活発な活動をしている。コロナ禍のため、県内外への遠征や練習試合の制限が多く、文武両道での取組ではあるが、どの部も好成績を上げている。 少子化のため学校の再編が今後進む中、部活動の精選も検討を始める時期にきていると考える。
業務改善	適切な勤務時間	校務支援システム活用の推進やテレワーク制度の活用などを通じて勤務時間外在校時間の縮小を実現する。会議の精選等を行い、業務の効率化を推進する。月に１回の「リフレッシュデー」を設定し、定時退勤のための意識高揚を図る。	B	長期休業中を中心にテレワークを推奨することで制度を活用した教職員が増加した。特に遠距離通勤の方は通勤時間がなくなるメリットは大きく、校務のみならず自分や家庭のために費やす時間を増やすことができた。月１回の「リフレッシュデー」では職員朝礼で、定時退勤やリフレッシュに努めるよう呼びかけることができた。	すべての教員がテレワーク制度をさらに有効活用し、勤務時間の大幅な削減を実現する。そのためには管理職が率先垂範し、早めに退勤する日を多くするなど教職員の意識の改革を行う。校務分掌等において過重負担にならないように配慮する。
	職場環境の整備	健康管理医による健康相談や健康講座を定期的に実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。教科や学年等でのコミュニケーションを密にして、メンタルヘルスケアの向上に努める。	B	心身の不調を訴える教職員はやや減少したと思われる。しかし、校内の健康診断の結果、再検査等が必要な方も多く、速やかな受診と回復が望まれる。校内衛生委員会を毎月開催することができており、環境整備と健康増進に寄与することができた。	ここ３年はコロナ禍において職員レクレーションや懇親会が開催されていない。来年度は考査中の午後を使い職員レクレーションで心身のリフレッシュを図る。また、健康増進のため定期的に健康講座を実施したい。

※評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった　）とする。